

事例 6 探究的な学習【課題の設定】 児童の思いや願いをもとに、活動の方向性を明確にすることができるよう課題の設定を行った事例

○学年	第5学年
○探究課題	ヨーロッパ野菜の魅力と、それを広める地域の人々の思いや願い（食・地域）
○主な事例のポイント	※それぞれの実践例にて紹介
	①構造的な板書によって思考を可視化し、活動の方向性を明確にする「課題の設定」を行う。
	②ICTを活用し、児童の考えから共通点を見いだす「課題の設定」を行う。
	③他者評価をもとに活動を振り返ることで、今後の活動の見通しをもつ「課題の設定」を行う。

ICTを活用した主な学習場面

- ・課題を設定する場面
- ・収集した情報を整理する場面

ICT活用の利点

- ①生成AIを活用することで、学級全体の意見から共通点を見いだすことができる。
- ②児童の振り返りを蓄積したり、収集した情報を共有したりすることが容易になる。

1 単元名 ヨーロッパ野菜の魅力を伝えよう！

2 単元の目標

ヨーロッパ野菜の魅力について調べたり、発信したりする活動を通して、さいたま市の食文化であるヨーロッパ野菜の魅力や、それを広める人々の思いや願いに気づき、どのようにしたらヨーロッパ野菜に親しんだり、発信したりすることができるかを考えるとともに、地域の食文化に誇りと愛着をもって大切にしようとするすることができる。

3 児童の実態（略）

4 教材について

本単元は、さいたま市のヨーロッパ野菜の魅力を発信する活動を中心に、探究的な学習が展開していくように単元を構成した。ヨーロッパ野菜は、さいたま市の農家やレストラン、流通業者や種苗業者など様々な人々が協力して、さいたま市の新たな食文化として成長させてきている。レストランでの消費が増え、市場規模も増大してきているが、一般家庭への認知度はあまり高くない現状がある。ヨーロッパ野菜の魅力を発信する活動を通して、児童が「ヨーロッパ野菜の魅力」に関わる概念を形成したり、探究的な学習の過程に沿った学び方のよさを習得したりしていくことができるようにしていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ヨーロッパ野菜は、さいたま市が全国に誇る、魅力的な食文化であることを理解し、それを広めようとする地域の人々の思いや、取組のよさに気付いている。	①ヨーロッパ野菜を調べたり、発信したりする上で生じた疑問や関心をもとに課題を設定し、解決の見通しを立てている。	①ヨーロッパ野菜を調べたり発信したりする上で、自分とは異なる友達の考えを生かしながら、他者とよりよく関わって課題解決に取り組もうとしている。
②調査活動を目的や対象に応じた適切な方法で実施している。	②多様な方法で、課題の解決に必要な情報を収集している。	②ヨーロッパ野菜を発信する活動では、課題と成果を振り返りながら、難しいことにも進んで粘り強く取り組もうとしている。
③ヨーロッパ野菜の魅力を理解したり、それを広める人々とともに協力して魅力を発信することができたりしたことは、解決すべき課題について探究的に学習した成果であることに気付いている。	③集めた情報を、比較したり関連付けたりして整理しながら解決に向けて考えている。	③ヨーロッパ野菜について調べたり発信したりする活動を通して、自分たちの地域の食文化への愛着を高め、これからも大切にしようとしている。
	④ヨーロッパ野菜について考えたことがよく伝わるように、内容を整理してまとめたり、目的や相手に応じて、工夫して表現したりしている。	

6 単元の指導計画と評価計画(70 時間扱い)

探究の過程	○学習活動(時間) ・ 児童の思考	・ 指導上の留意点 ○ 評価 (評価方法)
	○オリエンテーション(1) ・ 総合の学習の時間の進め方が分かってきたよ。 ○単元の設定について考える。(2) ・ 「食」に関わって、どんなことをみんなで学習していくか話し合おう。	・ 総合的な学習の時間のねらいや進め方について確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 ・ 学校教育目標や総合的な学習の時間の目標を児童とともに確認し、自分たちが高めていきたい資質・能力について考えることができるようにする。
課題の設定	課題① 食に関わるさいたま市の名産について知ろう ○さいたま市の名産について考える。(2) ・ さいたま市の名産にはどのようなものがあるのかな。	・ 自分たちが知っているさいたま市の名産について、ウェビングマップで表現していくことで、まだまだ地域の名産について知識が少ない現状に気付くことができるようにする。 ○態① (発言・記述)
情報の収集	○さいたま市の名産を調べる。(3) ・ さいたま市は鰻だけではなくて、ヨーロッパ野菜の栽培も盛んらしいよ。 	・ 校内の教職員や、栄養教諭に事前に活動内容を相談して依頼し、児童からの質問に答えていただくようにする。 ・ インターネットやインタビューなど、多様な方法で情報収集することができるように、活動前に、情報収集の方法について話し合いを行うようにする。 ○思・判・表② (行動・記述)
整理分析	○名産について調べたことを整理し、学習対象を定める。(2) ・ さいたま市でヨーロッパ野菜の栽培が盛んなイメージがなかった。どんな野菜なのかもっと知りたいな。 ・ 今年の総合では、ヨーロッパ野菜をテーマにしてみよう。	・ 個人で調べてきたことを全体で共有することで、さいたま市の名産について収集した情報を整理することができるようにする。 ・ 整理した情報をもとに、ピラミッドチャートで自分たちの関心ある内容を順序付けて分析し、学習対象を定めることができるようにする。 ○思・判・表③ (発言・記述)
課題の設定	課題② ヨーロッパ野菜について知ろう ○ヨーロッパ野菜を知るための活動の計画を立てる。(1) ・ ヨーロッパ野菜の魅力を知るために、これからどんな活動をしていったらよいかな。	・ 1 学期の活動内容に焦点を当て、フローチャートを活用した板書で児童の考えを可視化することで、今後の活動の見通しを明確にしていけることができるようにする。 ○思・判・表① (発言・記述) 事例のポイント① 実践例 1 を参
情報の収集	○ヨーロッパ野菜について調べたり、試食したりする。(6) ・ ヨーロッパ野菜は色鮮やかなところが特徴的だよ。 ・ 試食してみると、香りも、食感も日本の野菜よりはっきりしていることが分かったよ。	・ 試食を行う前に、保護者の方とアレルギー関係の確認を確実にすることで、安心して活動を行うことができるようにする。 ○思・判・表② (発言・記述) 編 P188 指導計画作成の留意事項(1), (3)

整理 分析	○調べて分かったことを整理して、分析し、ヨーロッパ野菜の魅力について話し合う。(2) ・カリフローレの数値がとても高いよ。みんなが、ヨーロッパ野菜に親しむきっかけにしていくことができるかもしれないね。	・評価項目について全体で話し合い、決めた後に、グループごとに表に数値を記録していくことで、可視化するようにしていく。その後、全体で共有する際は、数値の平均をとることで、学級全体の意見として統合していくことができるようにする。 ○思・判・表③（発言・記述）
まとめ 表現	○ヨーロッパ野菜の魅力について調べて分かったことを給食通信に表現し、発信する。(4) ・ヨーロッパ野菜は香りがよく、食感もよい野菜だから、みんなにもおいしく食べてほしいな。	・給食にヨーロッパ野菜が使用される日に合わせ、これまで情報収集し、整理・分析してきたヨーロッパ野菜の魅力について、全校の児童を対象に発信することができるようにする。 ○思・判・表④（行動・作成物）
情報の 収集	○ヨーロッパ野菜研究会の方に、ヨーロッパ野菜の魅力についてインタビューする。(2) ・ヨーロッパ野菜をPRするよい方法はあるかな。	・ゲストティーチャーの方との打ち合わせを事前に行い、子供たちの興味や関心があることをお話しいたぐようにする。 ○知・技②（発言・記述）
整理 分析	○インタビューした内容について振り返り、全体で整理する。(2) ・料理コンテストについて教えてもらったので、2学期は出品する料理を考えたいな。 ○これまでにヨーロッパ野菜について収集してきた情報をまとめ、ヨーロッパ野菜の特徴や魅力について考える。(2) ・ヨーロッパ野菜は、地元のレストランの思いを叶える、素敵な野菜だよ。もっとみんなに知ってほしいな。	・インタビューによって得た情報を、ICT端末を活用して振り返り、授業支援アプリによって全体で共有することができるようにする。 ○思・判・表③（発言・記述） ・1学期の学習の振り返りや、収集してきた情報の蓄積をもとに、フィッシュボーンを活用した板書によって、ヨーロッパ野菜の特徴や魅力について構造的に整理することができるようにする。 ○知・技①（発言・記述）
まとめ 表現	○1学期の学習を振り返り、2学期の学習の方向性を考える。(1) ・1学期はヨーロッパ野菜の特徴を知って、自分なりに魅力を考えることができたよ。	・全体で今後の見通しを立てることで、2学期からの活動への意欲を高めることができるようにする。 ○思・判・表④（行動・作成物）
課題の 設定	課題③ ヨーロッパ野菜料理コンテストに出品するメニューを考えよう ○ヨーロッパ野菜料理コンテストに向けて、これからの活動の見通しを立てる。(1) ・どんな料理にしていきたいか、いくつか考えていかないといけないな。 	・生成AI機能を活用して、学級全体の考えの傾向を可視化することで、今後の活動の見通しを立てることができるようにする。 ○思・判・表①（行動・記述） 事例のポイント② 実践例2を参 ICT活用の利点① 生成AIを活用し、学級全体の意見から共通点を見いだすようにした。

情報の 収集	○ヨーロッパ野菜料理コンテストに出品する料理について、どのようなものがよいか調べる。(4) ・学校みんなはどんな料理が好きか聞いてみよう。 ・ヨーロッパ野菜をPRすることが目的だから、作りやすい料理をたくさん調べてみようかな。	・インターネットで調べる際には、実現性に注目することができるようにする。 ・インタビューする際には、アンケートフォームを活用するなど、データとして蓄積することができるようにする。 ○知・技②（行動・記述） ICT活用の利点② 児童の振り返りの蓄積や、収集した情報の共有に活用するようにした。
整理 分析	○調べたことをもとに、ヨーロッパ野菜料理コンテストに出品する料理を考える。(3) ・ヨーロッパ野菜だから、ピザやパスタなど、ヨーロッパをイメージできるものがよいな。 ・コストを考えたときに、ピザなら何度も試作できそうだな。	・実現できるかどうかと、より多くの人に広まるかを視点に、座標軸を活用した板書で、考えを整理していく。 ・ピラミッドチャートを活用して、試作する料理を数品選んでいくことができるようにする。 ○思・判・表③（発言・記述）
まとめ 表現	○ヨーロッパ野菜ピザの試作を行う。(5) ・ヨーロッパ野菜ピザを作ってみたよ。おいしくできたと思うけれど、感想を聞いて改良していきたいな。 ・本格的な方がよいという意見もあったよ。どのようにしていこうか、さらに考えていこう。	・ピザの作り方についてステップチャートを活用し、整理できるようにする。 ・試作する際には、安全に行うことができるように留意する。 ・家庭科の学習事項を確認しながら、連携して指導を行うことができるようにする。 ○思・判・表④（発言・記述） 編 P188 指導計画作成の留意事項(3)
課題の 設定	課題④ よりおいしくて作りやすいメニューを目指して、試作品を作り直そう ○試作品をどうしたらよりよく改善できるか考える。(2) ・次はピザ生地や、ヨーロッパ野菜を変えて比べてみたいな。 ・ヨーロッパ野菜を広めることが目的なので、野菜のよさが生かせるようにしていきたいな。	・前回試食いただいた時の感想をもとに、改善の方向性を考えることができるようにする。 ・ヨーロッパ野菜を広めることを目的としていることを再確認し、野菜がより際立つようなピザについて考えることができるようにする。 ○思・判・表①（行動・記述） 事例のポイント③ 実践例3を参
情報の 収集 整理 分析	○ゲストティーチャーにアドバイスをいただいたり、試作を繰り返したりする。(6) ・シェフから、生地の発酵の方法を教えてもらったよ。早く試してみたいな。 	・ゲストティーチャーの方に、専門的な視点からアドバイスをいただくようにする。 ○思・判・表②（行動・作成物） 編 P188 指導計画作成の留意事項(4) ・試作を繰り返し、客観的に自分たちの料理を見直していく。考えたことは表にまとめ、整理・分析に活用できるようにする。 ○態②（行動・記述）

まとめ 表現	○本番のレシピを決める。(2) ・ヨーロッパ野菜の彩りを生かして、作りやすくおいしい、クリスピーピザにしたよ。コンテストの結果が楽しみな。	・これまでの活動を振り返ることで、ヨーロッパ野菜の特徴や魅力を捉え直し、納得のいくものを決めることができるようにする。 ○思・判・表④（発言・記述） 編 P188 指導計画作成の留意事項(2)
課題の 設定	課題⑤ ヨーロッパ野菜をPRしよう ○ヨーロッパ野菜料理コンテストの結果を振り返る。(1) ・コンテストに出品したレシピを生かして、もっとヨーロッパ野菜をPRしたいな。	・ヨーロッパ野菜料理コンテストに出品した結果を振り返ることで、自分たちのピザを生かすことができるような活動を考えることができるようにする。 ○思・判・表①（発言・記述）
情報の 収集	○自分たちの料理を活用してPRする方法を考える。(2) ・コンテストのピザ作りに協力いただいたシェフや研究会に相談してみたいな。	・ゲストティーチャーとオンライン会議を設定し、相談する機会をもつことができるようにする。 ○知・技②（行動・記述）
整理 分析	○PR方法について話し合う。(3) ・レストランで私たちのヨーロッパ野菜のピザを提供できるようにしていきたいな。 ○レストランのメニューとして出していくために、ピザを改良する。(5) ・コンテストの時より味を本格的に仕上げていきたいな。	・販売することによって生じる責任と、実現した際の効果に着目してプレゼンし、レストランに協力いただけるようにしていく。 ・ヨーロッパ野菜のPRに向けて、繰り返し試作を行ったり、レストランと打ち合わせをしたりすることができるように、スケジュールの調整を行うようにする。 ○態②（行動・記述）
まとめ 表現	○PR活動を行う。(4) ・僕たちのピザのアイデアが実際にレストランのメニューに生かされているのを見て、頑張ってきてよかったと思ったよ。 ・ヨーロッパ野菜がもっと多くの人に好きになってもらえるとうれしな。 ○これまでの学習を振り返り、ヨーロッパ野菜に関わって、自分たちがどのように成長してきたか考える。(2) ・ヨーロッパ野菜をPRすることを通して、色々な人とつながる大切さを感じたよ。 ・さいたま市のヨーロッパ野菜を誇りに思うよ。ずっと地域の食文化を大切にしたいな。	・レストランのコラボメニューに合わせて、ヨーロッパ野菜のことを知らせるポスターや、レシピブックなどを作成できるようにする。 ・アンケートフォームを活用して、ヨーロッパ野菜に関心をもってもらえたかを振り返ることができるようにする。 ○知・技①（発言・記述・作成物） ・これまでに蓄積してきた振り返りや、活動の写真などをもとに、1年間の総合的な学習の時間を通した自身の成長について考えることができるようにする。 ・ヨーロッパ野菜についての自分の考え方を捉え直し、地域の食文化を大切にすることができるようにする。 ○知・技③（発言・記述） ○態③（発言・記述）

7 実践例

【実践例1】構造的な板書によって思考を可視化し、活動の方向性を明確にする「課題の設定」(フローチャートの活用)

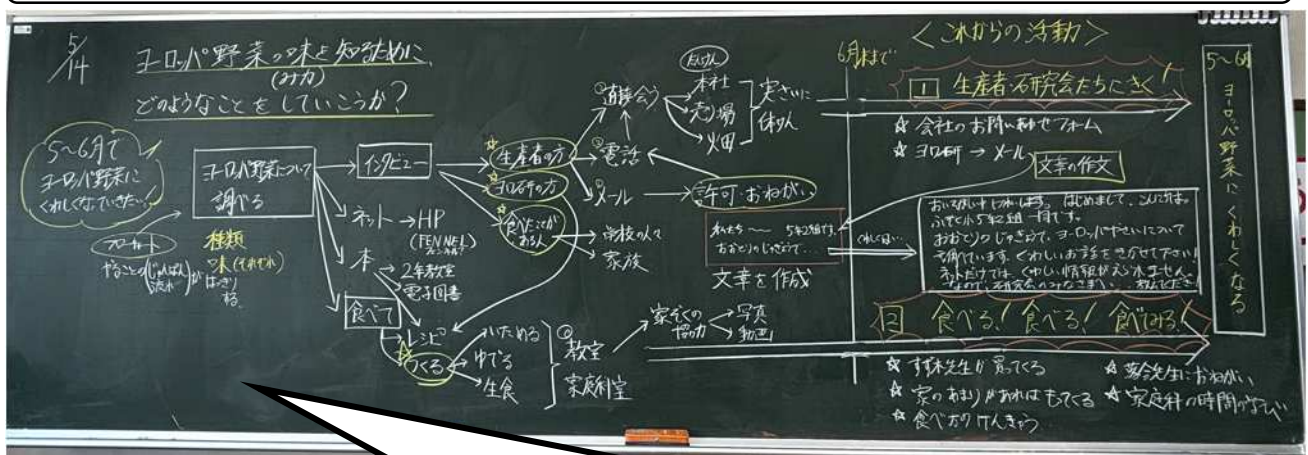
総合的な学習の時間では、児童が自ら課題意識をもち、その意識が連続発展していくように、探究的な学習の過程を意識して単元を構成するようにしていくことが重要である。そのため、課題の設定の場面では、児童の思いや願いをもとに今後の活動の方向性を整理し、明確にしていけるように教師が意図的に働きかけることが重要だと考える。

第11時では、構造的な板書によって児童の思考を可視化し、今後の活動の流れを整理し、明確にすることができるようにしていった。

第11時

ヨーロッパ野菜の魅力を知るために、今後の活動の流れを考えていった。その際、思考ツールとしてフローチャートを活用し、活動の流れを可視化できるようにした。また、活動を矢印でつなぎ、発展性があるものはさらに枝分かれして広げていくことができるようにしていった。フローチャートを活用して児童の思考の流れを可視化することで、児童は今後の活動の方向性が明確になり、その後の活動に見通しをもって取り組むことができるようになった。

フローチャートを活用し、児童の思考を可視化し、今後の活動の流れを明確にした板書



○板書の工夫

- ・矢印を用いて活動の順序を可視化し、すべきことが明確になるようにした。
- ・「5～6月の活動」と考える範囲をあえて限定的にすることで、今後の活動へのイメージを作りやすくした。
- ・活動の広がりが見込まれる部分は、色分けして強調したり、矢印を枝分かれさせ広げたりすることで、具体的に考えることができるようにした。

○児童の姿

ヨーロッパ野菜の魅力を知るために、①生産者・研究会の方にインタビューすること
②ヨーロッパ野菜を試食することの2つの活動に取り組むことを決めることができた。
自分たちがすべきことが明確になったため、学習を自分たちで進めているという実感をもつことができた。

【実践例2】ICTを活用し、児童の考えから共通点を見いだす「課題の設定」 (生成AIの活用)

第31時では、生成AIを活用して、学級の児童一人一人の考えを解析し、考えの共通点や傾向を見いだすことで、今後の活動の方向性を明確にしていくようにした。

生成AIは、抽出したキーワードやフレーズを使って、似たような意見や考えをグループ化したり、グラフやチャートなどでイメージ化したりすることができる。そうすることで、全体の考えの傾向や共通点を捉えやすくなり、学級の児童それぞれの考えをもとにした課題の設定を行うことができた。

第31時

2学期からの活動の方向性を明確にするために、まず個人でヨーロッパ野菜料理コンテストに向けてどのような活動をしていくべきか考えていった。考えたことは、ICT端末

学級の児童の振り返りをICT端末に入力する

児童A	9月から11月にかけて、やること(やりたいこと)
	9月
	1 どんなヨーロッパ野菜とどんなヨーロッパ野菜が合うか(野菜の組み合わせ)を考える 2 その組合せで、どんな料理ができそうかを考える。 (1, 2は順番が入れ替わってもOK)
	10月
	その料理が現実的に作れそうかを考える(ハードルが高すぎても無理かもだから) とにかく実際に沢山作りまくる!!!!!!(試作品)
11月前半	
	作り方などの確認!
	後半
	コンテスト出品!
児童B	2学期のコンテストに向けて、やるべきことを考えよう!
	9月~10月の予定!
	9月 それぞれのヨーロッパ野菜に合う調理法や、料理の仕方などを調べる!
	10月 実際にたくさんさんの料理を考える!(つくって試食して、整理分析する!)
	11月
	実際に出品!
	どのような料理がいいか...
	迫力のある料理、盛り付け方を工夫する!(色合いなど)

その後、生成AI機能を活用して、学級全体の考えの傾向を可視化することで、今後の活動の見通しをもつことができるようにした。

ICTの活用について

- ・児童の考えから似ている言葉を抽出し、まとめることで、全体の考えの傾向を掴むことができる。
- ・生成AIによる解析は短時間でできるため、その後の活動の詳細を話し合う時間を十分にとることができる。

生成AIで解析を行う

分析の指示

すべての投稿を要約してください。

分析する

分析結果

以下は学生の投稿を要約したものです。

9月から11月までの活動計画が多くの学生によって提案されています。主な活動内容は以下の通りです。

- **9月:** ヨーロッパ野菜を使った料理のアイデアを出し、調理方法や使う野菜を選定。野菜を育て、その特性を調べる。試作品の候補を考え、実際に育てながら研究。
- **10月:** 実際に料理を作って試食を行い、味や見た目を微調整。レシピを作成し、試作品を何度も作ることで改善点を見つける。班ごとに作った料理を共有し、評価を行う。
- **11月:** 最終的な調整を行い、コンテストに出品する料理を決定。出品に向けての準備を整える。コンテストでの入賞を目指す意気込みも多くの学生から表明されていました。

これらの投稿からは、計画的で段階的なアプローチが強調されており、学生たちが具体的な目標に向かって取り組む意欲が見受けられます。

○児童の姿

児童それぞれの考えを取り入れることができるため、納得感をもって今後の活動の方向性を設定することができた。9月はヨーロッパ野菜料理コンテストの料理のアイデア出しと、使う野菜を選ぶために、料理の候補を調べるという次の活動につながった。

【実践例3】他者評価をもとに活動を振り返ることで、今後の活動の見通しをもつ「課題の設定」(表の活用)

総合的な学習の時間では、自分たちの活動について、他者の視点からの意見を収集し、整理・分析することで、これからの活動に生かしていくことができるようにすることが大切だと考える。そこで、第40時では、他者評価をもとに活動を振り返る場面を意図的・計画的に設定し、次の課題設定を行うことができるようにした。

第40時

これまでの2回のヨーロッパ野菜ピザの試作で、校内の教員に試食してもらった感想の中から、ピザ生地に関わるものを抽出し、全体で共有していった。自分たちの思いに加え、他者の評価を取り入れていくことで、今後の試作の方向性を考え、活動の見通しをもつことができるようにした。

1/6 コンテストに出品おピザは、手作り生地でしょうか？
(整分) 市販の生地でしょうか？

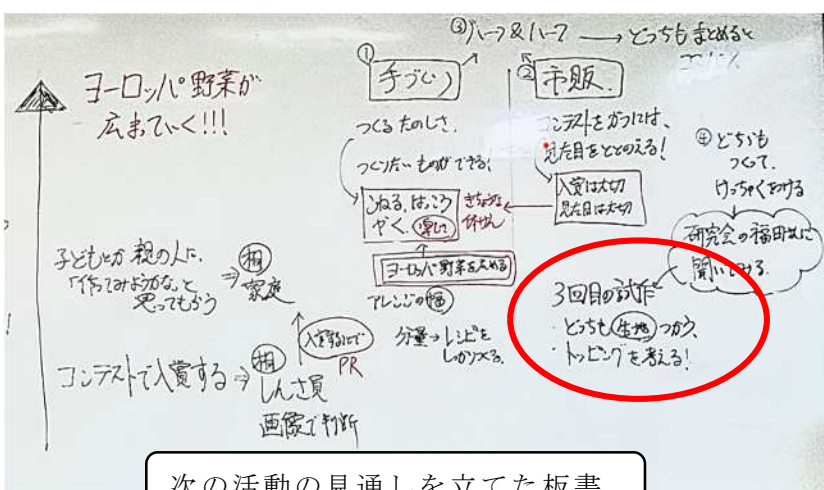
	手軽さ	見た目	おいしさ	作る楽しさ
手作り	△ はこう時間(楽)! ○ コストパフォーマンスがよい! ○ 作りやすい! (子供でも!) ○ はたしなみ! (時間短縮!)	○ アレンジできる! (←) △ ずぼらな感じが...! ○ やさしい! (子供でも!) △ 失敗が少なく! (←) ○ 自分だけの個性!	○ バリ、モチモチ! (おいしい!) △ 歯は、歯が痛い! (おいしい!) △ はたしなみ! (時間短縮!) ○ かんたんに作れる! (おいしい!)	○ 生地がおいしい! ○ 作りやすい! (おいしい!)
市販	○ 作りやすい! (時間短縮!) ○ 歯が痛い! (おいしい!) ○ 作りやすい! (時間短縮!)	○ アレンジできる! (←) △ ずぼらな感じが...! ○ やさしい! (子供でも!) △ 失敗が少なく! (←) ○ 自分だけの個性!	○ バリ、モチモチ! (おいしい!) △ 歯は、歯が痛い! (おいしい!) △ はたしなみ! (時間短縮!) ○ かんたんに作れる! (おいしい!)	○ 生地がおいしい! ○ 作りやすい! (おいしい!)

ピザ生地についての感想を整理し特徴を比較した板書

授業の前半では、表を活用して意見を整理し、自分たちが次に試作する際に、市販の生地がよいのか、手作りの生地がよいのか考えることができるようにした。

○板書の工夫

- ・表を活用して4つの視点で2つの生地の特徴を整理し、比較できるようにした。
- ・試食をしてもらって収集した感想を整理することで、コンテストで入賞することと、多くの家庭で使ってもらおうことという、目的意識と相手意識を明確にすることができた。



次の活動の見通しを立てた板書

授業の後半では、目的意識と相手意識を再度確認し、自分たちの活動を振り返っていった。その結果、手作りの生地と市販の生地には、それぞれよさがあるため、どちらかに決めずに、次からの試作では、それぞれレシピを開発していくことと、肝心のヨーロッパ野菜を使ったトッピングを考えていくという見通しをもち、課題設定につなげることができた。

○児童の姿

自分たちの主観だけでなく、他者の評価も取り入れることにより、自分たちが大切にしてきた相手意識と目的意識を再確認することができた。そして、次の試作に向けて、レシピの方向性を考えることができた。